



# 国内研修報告書

## ・はじめに

私がこの研修を希望した理由は当初は「海で遊びたい、BBQ したい」などの甘い考えであった。それゆえ、ヒトツナギの活動などには興味を持たずにいた。しかし、この研修を通して初めてこの研修を行った意義が分かった。そこで研修で何を行い、何を学んだのかを考えていきたい。

## ・キンニャモニャ祭り

初日最初の活動は隠岐の海士町にある伝統のある祭りの一つに、キンニャモニャ踊りがあり、そこに私たちが参加することであった。初日の私たちは東京から隠岐に行くまでの移動時間で疲れきっていた。しかし海士町に到着した時に疲れをふっ飛ばすような島民の皆さんに活気がそこにはあった。子供たちは笑顔で走り回り大人はビール片手に心地よく島民の皆さんと会話し都会の祭りに負けない程のものであった。

時間になり私たちはキンニャモニャ踊りを踊った。この踊りも驚嘆すべきものがあった。私が今までに経験した都会の祭りの踊りのほとんどは太鼓の周りをご高齢の方が踊り、若者は外から見ているスタンスであったが、このキンニャモニャ踊りは違った。老若男女問わず祭りに来ていたほとんどの人が参加していたのだ。参加者が多すぎるため踊りの規模も会場全てを使ったのである。この参加者の規模に私は驚愕した。参加者の中には大阪から来た人や、私たちと同じように大学の研修で来た人もいた。この大規模な踊りは1時間行われ大いに盛り上がるものであった。

この活動を通して、反省点としては、1時間の踊りに耐える事が出来なかった点が挙げられる。最初の30分は楽しくできたが少しずつ疲労が蓄積されて最後には少しグダってしまったことがある。

反省以外にも私なりに都会の祭りもこの祭りを見習ってもらいたいと考える。最近の若者は祭りの踊りには興味がない傾向にある。そこで、多くの若者が海士町のように積極的に地元の祭りに参加することで、地域と触れ合う機会が増えて地域活性化の第一歩になると私は考える。

## ・ヒトツナギ交流会

この企画は研修の中でも重要なものであった。内容は島前高校の部活の一つにあるヒトツナギ部の部員と前期の活動を振り返ることであった。ヒトツナギ部はどのような活動をするのかというと、高校生が島前の良さをアピールするために中高生に向けた旅を企画・運営する部である。

交流会は3. 4時間続いた。高校生の会話の内容は驚きの連続であった

- 基本、活動をする時の移動はヒッチハイクであり、乗せてくれた人とも仲良くなる
- 地域の人と部活で仲良くなるので、たまに地域の人から野菜などをおすそ分けしてもらえる。
- 企画では様々な事を考え、ある時には案山子を作りに行ったこともある。
- 島民の人とは全員知り合いで、島を歩いていけば会う人全員に挨拶される。

Etc...

このように、ヒトツナギ部の活動は都会に住んでいる私たちの考えを超えた体験をしていた。

この企画の反省は私の考えの甘さである。冒頭でも述べたように、当初はこの企画に興味がなかった。本心では話し合いよりも観光をしたい気持ちのほうが強かったからである。しかし、この3. 4時間の交流で私の考えの甘さを痛感した。高校生は島前をもっと多くの人に知ってもらおうという地元愛を熱心に伝えてくれた。そのような人達に半端な気持ちで交流してはいけないと感じた。

更に、もう一つの反省は私の人見知りである。私は人見知りであることは自分でも分かっていたが、それが今回は顕著に出たことが挙げられる。会話の中でも高校生の方が多く話し、大学生は聞いている形が多くみられ、高校生の発言に上手くレスポンスして深く掘り下げていくことが出来なかった。全体を見ると班ごとに温度差があった。静かなところの班の高校生で無理に気を遣わせてしまったパターンもあった。

このような反省を踏まえて改善策を見つけることは大切である。改善策として、大学生一人一人の話の聞き方を高める必要がある。その為に話の聞き方を学んだのであれば、日頃から思いに留めて会話をするよう心掛けることが出来る。また、多少ヒトツナギ部の事についての知識も取り入れる必要があると考える。少しでもあることでレスポンスも行きやすくなると推測するからだ。

この企画では、多くの反省点が見られたが私たちにとってヒトツナギ部をより深く知ることが出来た良い機会と考える。

## ・ 中学校出前授業

この企画は島前の中学生と交流して各々中学生自身について見つめ直してもらい、大学生とはどういうものなのかを話す機会であった。

ヒトツナギ交流会がありヤル気は十分にあったが、人見知りという自分の性格がありとても緊張していた。交流が始まり黙るかと思いきや、中学生から積極的に話してくれて

最後には友達同然で会話できるほど仲良く交流する事が出来た。

反省点といえば同じテニス好きで話が盛り上がり本来の企画を逸脱するような形になってしまった事が挙げられる。改善策としてももう少しこの企画の趣旨を理解することが必要であると考えている。

しかし、会話の感じでは互いに仲良くなれた楽しいムードを作ることができて、互いに良い時間が過ごせたと考える。反省以外では、最初緊張していた私に話を振ってくれた中学生の行動から「自分から話さなければならない」と改めて大学生という立場を再認識する事が出来たことである。最近遊びが大半の日常を占めており、大学生という立場を忘れてはしゃいでしまう時があったが、そのような私にも為になる企画であったと考える。

## ・ 島観光

これは企画ではなく単なる遊びである。皆は西ノ島を選択した中、私たちは海士町を観光した。

今回の海士町でのメインはドライブしながら観光したことである。海士町の観光地は広範囲に分布され、徒歩で回るには無謀であった。そこで、車をお貸ししてもらい海士町をドライブしながら観光することにした。普段都会の中を走っているのとは違い、綺麗な山、海を見ながら回ることができてとても楽しい経験をした。所々でみえる海岸は下が澄み切っており沖縄にも負けない程綺麗だった。

また、カフェでは島に伝わるハーブティーをかき氷のシロップにのせたふくぎ茶のかき氷は絶品だった。

他にもあるが観光を通してより風景、味覚ともに一層隠岐の魅力を感じることが出来たと思う。

## ・ 島での生活

島での生活はとても充実したものであった。ご飯や宿舎での生活など都会にはないものを体験できた。

まずご飯について。ご飯は基本的に自炊であったが、たまに研修のサポートをしてくれた近藤さんにご飯のうまい店に連れて行ってもらった。また近藤さんの家をお借りしてBBQをすることもあった。お店では地元でとれたサザエを使ったサザエごはんがとても美味しかった。その他にも港が近いこともあって魚を新鮮な状態で頂く事ができた。BBQはとても島の人の愛情を感じることが出来たいい機会だった。BBQをやっていると、周りに住んでいた島民の皆さんが次々に差し入れを持ってきてくれたからである。差し入れも

アワビ、肉、イカなど申し訳ない程多くの食材を頂いた。知らない人達にここまで親切にしてくれる島民の皆さんの愛情を感じることができた。

そして宿舎での生活について。宿舎の生活は過ごしやすいものだった。特にサポートをしてくれた近藤さんの存在が大きかった。自炊の面では魚のさばき方などの調理の方法を丁寧に教えてくれた。時には自ら魚のあら汁を作って私たちに振舞ってくださることもしてくれた。自炊以外では、毎晩明日の予定や今日の反省を率先してまとめてくれた。また、夜遅くに天体観測をしに近藤さんの車で連れて行ってもらった。もう2時なのに私たち全員を宿舎に運ぶために3往復もしてもらった事には本当に感謝の一言であった。

島での生活は近藤さんなしにここまで充実したものにはならなかったと感じている。

## ・まとめ

研修全体を見て、隠岐の素晴らしさを感じることが出来た。綺麗な自然、地元愛に溢れた学生、そして何より島民の皆さんの優しさに深く感銘を受けた。ヒトツナギ部の自分たちで何か行おうとする態度を見て、私も大学に来て何か一つの事に取り組み充実した大学生活を過ごしていきたいと考える。